

# 非コンパクト等質 Einstein 多様体について

田丸 博士

(広島大学大学院理学研究科)

2006/09/13 幾何学阿蘇研究集会

# Introduction (1/3)

---

漠然とした問題：

- 多様体は, いつ「良い」「構造」(e.g., リーマン計量) を持つか？
- 「良い」「構造」を持つ多様体は, どれくらいあるか？

今回の話題：非コンパクト等質 Einstein 多様体

- 非コンパクト等質空間  $G/H$  は, いつ  $G$ -不変 Einstein 計量を持つ？  
( $G, H$  の群論的性質と関係？)
- 非コンパクト等質 Einstein 多様体  $(G/H, g)$  は, どれくらいあるか？  
(コンパクトの場合と違って, 連続的に存在)

今回の講演の目標：

- 非コンパクト等質 Einstein 多様体の有名な例の紹介
- 非コンパクト等質 Einstein 多様体の新しい構成法の紹介
- 今後の問題と課題 (moduli)

# Introduction (2/3)

---

群論的性質との関連：Einstein  $\Rightarrow$  可解？

○ Alekseevskii 予想「非コンパクト等質 Einstein  $\Rightarrow$  可解多様体？」

(i.e., 等長的かつ推移的に作用する可解群が存在)

(参考 ([Heintze 1974]): 等質, 負曲率  $\Rightarrow$  可解)

簡単な例 1：ユークリッド空間  $\mathbb{R}^n$  は, 非コンパクト等質 Einstein;

$$M(\mathbb{R}^n) = O(n) \times \mathbb{R}^n \supset S := \mathbb{R}^n \curvearrowright \mathbb{R}^n \quad : \text{推移的}$$

簡単な例 2：双曲平面  $\mathbb{R}H^2$  は非コンパクト等質 Einstein;

$$SL_2(\mathbb{R}) \supset S := \left[ \begin{array}{cc} * & * \\ 0 & * \end{array} \right] \curvearrowright \mathbb{R}H^2 \quad : \text{推移的}$$

# Introduction (3/3)

---

本講演では, 単連結の場合のみを考える :

- $(S, g)$ , ここで  $S$  は単連結可解群,  $g$  は左不変リーマン計量
- 内積付き可解リー環  $(\mathfrak{s}, \langle, \rangle)$  を考えれば良い
- リー環  $\mathfrak{s}$  が可解  $:\Leftrightarrow \mathfrak{n} := [\mathfrak{s}, \mathfrak{s}]$  が巾零

研究の手法など :

- Ricci 曲率は (原理的には) リー環で計算できる  
(Ricci 曲率は,  $\text{ad}, \text{ad}^*, \langle, \rangle$  を用いて表せる)  
(しかし, 正規直交基底に関して和を取ったりして, 式は複雑)
- $\mathfrak{s}$  の代数構造が複雑 (e.g.,  $\mathfrak{n} = [\mathfrak{s}, \mathfrak{s}]$  の step 数が大きい) な場合, 計算は難しい
- 与えられた  $\mathfrak{s}$  上の Einstein 計量を見付けることは, 難しい

# Known Examples (パターン 1)

---

良い幾何を持つもの：

- 非コンパクト型対称空間
- 非コンパクト等質 Kähler-Einstein 多様体
- 四元数 Kähler 可解多様体

非コンパクト型対称空間  $(M, g)$  について：

- 岩沢分解を通して可解群と同一視できる

$$(M = G/K \cong AN)$$

( $G = KAN$  は岩沢分解;  $K$  は極大コンパクト,  $A$  は可換,  $N$  は巾零)

- 岩沢分解の例.

$$\mathfrak{sl}_n(\mathbb{R}) = \mathfrak{so}(n) + [\text{対角行列}] + [\text{上三角行列}]$$

- 系.  $\mathfrak{s} := [\text{対角行列}] + [\text{上三角行列}]$  は Einstein 計量を持つ

# Known Examples (パターン 2) (1/2)

良い巾零リー環  $(\mathfrak{n}, \langle, \rangle)$  の ”可解拡大”

- 可解拡大とは,  $\mathfrak{s} := \mathfrak{a} + \mathfrak{n}$  (半直積) という操作
- Damek-Ricci space  $(\mathfrak{s}, \langle, \rangle)$   
:= generalized Heisenberg 群の (所定の) 1 次元可解拡大  
( $\mathfrak{s} = \mathbb{R}A + \mathfrak{n}$ , ここで  $A$  は canonical に定まる)
- generalized Heisenberg リー環  $(\mathfrak{n}, \langle, \rangle)$  とは,  
Clifford 代数の表現から構成される 2-step 巾零リー環
- 例. 古典的な Heisenberg リー環の場合,

$$\mathfrak{n} := \left\{ \begin{bmatrix} 0 & x & z \\ 0 & 0 & y \\ 0 & 0 & 0 \end{bmatrix} \right\} \rightarrow \mathfrak{s} := \mathbb{R} \begin{bmatrix} 1 & & \\ & 0 & \\ & & -1 \end{bmatrix} + \mathfrak{n} \quad (\cong \mathbb{C}H^2)$$

# Known Examples (パターン 2) (2/2)

半単純リー環の gradation から得られる巾零リー環

- 半単純リー環の分解  $\mathfrak{g} = \sum_{k \in \mathbb{Z}} \mathfrak{g}_k$  が gradation  $:\Leftrightarrow [\mathfrak{g}_k, \mathfrak{g}_l] \subset \mathfrak{g}_{k+l}$
- $\mathfrak{n} := \sum_{k>0} \mathfrak{g}_k$  は巾零リー環
- 例. 行列のブロック分割から,  $\mathfrak{sl}_n(\mathbb{R})$  の gradation が得られる, e.g.,

$$\left[ \begin{array}{c|c|c} \mathfrak{g}_0 & \mathfrak{g}_1 & \mathfrak{g}_2 \\ \hline \mathfrak{g}_{-1} & \mathfrak{g}_0 & \mathfrak{g}_1 \\ \hline \mathfrak{g}_{-2} & \mathfrak{g}_{-1} & \mathfrak{g}_0 \end{array} \right]$$

- 森邦彦 (2002, OJM). 古典型複素単純リー環  $\mathfrak{g}^{\mathbb{C}}$  の 2 階の gradation に対し,  $\mathfrak{n} := \mathfrak{g}_1^{\mathbb{C}} + \mathfrak{g}_2^{\mathbb{C}}$  は Einstein 可解拡大を持つ
- T (2004). 全ての  $\mathfrak{g}$  の全ての 2 階と 3 階の gradation に対し,  $\mathfrak{n}$  は Einstein 可解拡大を持つ

パターン 2 が使えるのは,  $\mathfrak{n}$  の step 数が小さいか, 次元が低い場合のみ...

# New Method

---

部分多様体に着目：

- $(\mathfrak{s}, \langle, \rangle)$  が Einstein のとき, 部分環  $\mathfrak{s}' \subset \mathfrak{s}$  が (誘導計量に関して)  $\text{ric}^{\mathfrak{s}'} = \text{ric}^{\mathfrak{s}}|_{\mathfrak{s}' \times \mathfrak{s}'}$  (Ricci-equivalent?) を満たせば, 自動的に Einstein

主結果：

- 全ての半単純リー環の全ての gradation  $\mathfrak{g} = \sum_{k \in \mathbb{Z}} \mathfrak{g}_k$  に対し,  $\mathfrak{n} := \sum_{k > 0} \mathfrak{g}_k$  は Einstein 可解拡大を持つ

証明の方針：

- gradation と適合する岩沢分解  $\mathfrak{g} = \mathfrak{k} + \bar{\mathfrak{a}} + \bar{\mathfrak{n}}$  を取る ( $\mathfrak{n} \subset \bar{\mathfrak{n}}$ )

- $\mathfrak{a} \subset \bar{\mathfrak{a}}$  も上手く取る

(実はこれは, 放物型部分環  $\mathfrak{p} := \sum_{k \geq 0} \mathfrak{g}_k$  の Langlands 分解)

(“generalized 岩沢分解” と呼ばれるものとも, 大体一致)

- $\mathfrak{a} + \mathfrak{n}$  は, 対称空間  $\bar{\mathfrak{a}} + \bar{\mathfrak{n}}$  の Ricci-equivalent な部分環

# Comments

---

主結果に関して：

- $\mathfrak{s} \supset \mathfrak{s}'$  は, 全測地的ではない, むしろ全測地的部分多様体の補空間
- $n$  は任意の step 数を取りえる ( 代数構造が複雑 )  
(ただし  $n$  の step 数は, 対称空間の  $\bar{n}$  の step 数より減る)
- 多くの例が構成された  
( $\bar{\mathfrak{a}} + \bar{\mathfrak{n}}$  には, 約  $2^r$  個の gradation, ここで  $r := \dim \bar{\mathfrak{a}}$ )  
(しかし, 離散的)

当然考えるべき問題：

- 各対称空間  $\bar{\mathfrak{a}} + \bar{\mathfrak{n}}$  の Ricci-equivalent な部分環はどのくらいある？
- Damek-Ricci space の Ricci-equivalent な部分環は？
- そのような部分環が連続的に存在する？ ( moduli )
- 等質でない Ricci-equivalent 部分多様体は存在する？

# Moduli

---

Einstein 可解多様体の moduli は, 一般に次元が高い (と思われる)

- $\{(g, \langle, \rangle) \mid g \text{ は } n\text{-dim リー環}\} / \text{isom}$   
 $\cong \{\mu \in \wedge^2(\mathbb{R}^n)^* \otimes \mathbb{R}^n \mid \text{Jacobi 律}\} / O(n)$   
 $\supset \{\mu \mid \text{Jacobi 律, 可解, Einstein}\} / O(n) \quad : \text{moduli space}$
- $\mathbb{R}H^n, \mathbb{C}H^n$  は孤立点 (代数構造が簡単すぎるから?)
- $\mathbb{H}H^n$  ( $n \geq 3$ ) の近傍で, moduli の次元は正

関連した問題:

- Ricci-equivalent な部分環は, 連続的に存在するか?  
( 変形の具体的な記述 )
- 変形できるための障害?
- (可解) リー群上に左不変 Einstein 計量が存在するための障害?  
( 位相的な障害は期待できない... 代数構造に付随した障害? )

# まとめ

---

大きな問題:

- 等質空間上の Einstein 計量の存在  $\leftrightarrow$  群論的な条件, 制約?

結果:

- 対称空間 (または半単純リー群) に上手く入ってるくらい良い可解群ならば, 左不変 Einstein 計量を持つ
- 手法は, 部分多様体論 (Ricci-equivalent)

経験則:

- 可解群は, いろいろと面白い例を供給する  
(cf. また, Levi 分解より, 可解群を調べることは自然でもある)